

2026年KSBL春季リーグ戦大会規定

- ① 全神戸軟式少年野球連盟大会規定、全軟連競技者必携及び公認野球規則、KSBL大会規定総合版を準用する。**DH制(投手のみ)を採用しても差し支えない。**
- ② 選手の集合は試合開始予定時間45分前とし、主将は**メンバー表4部、選手登録書**を提出し先行後攻のトスを行う。本部はメンバー表と選手登録書を照合する。
*** 選手登録書は春季大会期間中、必ず持参しなければならない。**
- ③ 試合前のシートノックは4分間とするが、大会運営上短縮、又は認めない場合がある。
この場合は、原則として攻守決定の際に知らせる。
- ④ ベンチは若番が1塁側とする。ただし本部の指示が優先する。(会場提供チームに選択権がある)
- ⑤ ベンチに入れる指導者はスコアラーを含めて5人までとする。
- ⑥ **6回戦又は80分**を限度とし新しいイニングに入らない。
規定回終了又は時間経過にて終了時、同点の場合は引き分けを採用する。
- ⑦ 得点差によるコールドゲームは、**3回終了時10点差、4回以降は7点差**をもって成立させる。
降雨・日没などにより試合が続行できないと審判員が判断した場合は、4回終了後であれば、コールドゲームを適用する。4回を終了していない場合は、再試合とする。
降雨、落雷等により試合を中止した場合、4回終了時で成立する。但し、4回表を終了後、または4回裏の途中で降雨・日没などにより中止となった時、後攻チームの得点が多いときは後攻チームの勝利として正式試合とする。但し、日程調整等のため会長又は執行部の判断により継続試合とする場合があり、異議を申し立てることは出来ない。
- ⑧ 投手の**球数制限を70球**とする。試合中に70球に達した場合はその打者の打撃が完了するまで認める。
牽制球、投球練習球は投球数には含まない。(ボークにもかかわらず投球したものは投球数に数える)
過失により制限された球数を超えた場合、その打者の打撃完了まで認める。尚、ペナルティーは無い。【注】参照
【注】投球数のカウントは本部が行う。チームがカウントした投球数と本部がカウントした投球数とに差異があったとしても、本部の投球数カウントが有効である。差異に対しての異議は唱えることは一切出来ない。但し、下記の時は、チームがカウントしていた、投球数を参考にして本部が投球数を確定する。
(1)当該試合で本部での集計が出来ないで状態。
(2)試合中に本部での管理の不具合等により、投球数のカウントに支障がおきた場合。
- ⑨ 投手が投球姿勢に入った際には、ベンチから(選手、指導者を問わずグラウンド内および隣接する応援エリアを含む)投球を妨げるような声援は禁止する。(応援歌は差し支えない)
- ⑩ 大会試合球は連盟公認マルエスJ球を使用する。
- ⑪ 監督、コーチは時間短縮のため、タイムを求め球審が認めたときは、選手に指示を与える。選手交代も同様に時間短縮につとめなければならない。なお、抗議できるのは監督のみとする。但しルールの確認行為のみとする。どんな理由があろうと相手(自)チームのプレイヤー及び審判員に対し、悪口、暴言を吐く事を禁ずる。
- ⑫ 攻撃(守備)の時間が長引いた時は、本部又は審判員の判断により休息タイムを設ける。
(休息タイムを本部が認めた時にタイマーを停止し、**時間経過後投球練習を始めた時に再開される**)
- ⑬ 決勝トーナメント戦大会規定はリーグ戦途中又は終了後に周知する。
- ⑭ 安全上、一般用ハイコン(複合)バットの使用を禁止する。
- ⑮ KSBL新型コロナウイルスガイドラインを参照して試合を行って下さい。
☆この大会規定は抜粋されている部分がある。KSBL大会規定総合版も参照し必ず準用すること。